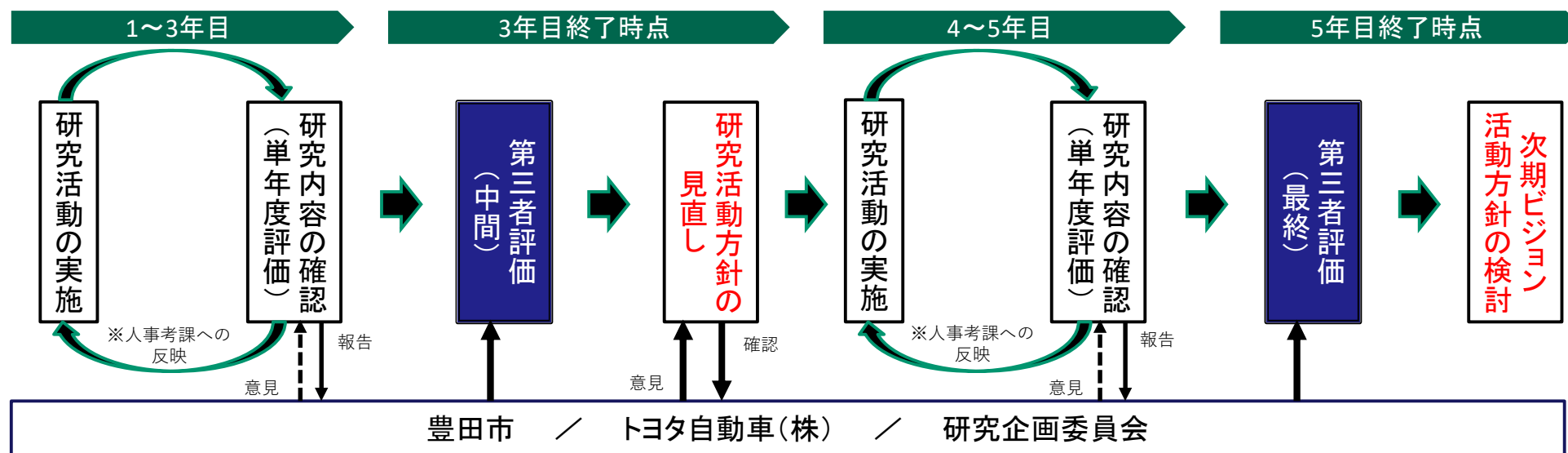


令和6年度 研究活動の評価について

1. 第3次中期ビジョンにおける評価の仕組み

- 第三者※評価を取り入れ、自己評価とのギャップを測りつつ、PDCAを回す。 ※ 豊田市・トヨタ自動車・研究企画委員会(有識者)
- 研究所の「役割」毎に設定した「あるべき姿」を客観的に示す指標により評価し、人事考課制度と連動させて実効性を高める。
- **単年度評価**：論文発表や外部機関からの受注、情報発信などの実績を示す確認指標（36指標）により自己評価し、第三者から自己評価に対するコメントを拝受⇒各研究員の個人目標設定の参考とする。
- **中間・最終評価**：3指標、6基準で設定した評価指標により、3年目、5年目に評価（自己評価＋第三者評価）を実施する。



(中間・最終)
評価指標

役割	あるべき姿	評価指標	評価基準（最終年次）
広義の都市交通の研究	地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている	研究領域のカバー率（政策提言・査読付き論文発表を実施した方針数）	①暮らし領域：7方針 ②安全領域：5方針
交通まちづくりの推進	関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている	事業化に至った政策提言・研究所主導の研究の件数	①政策提言：2件 ②研究所主導の研究：4件
世界への情報発信と貢献	情報発信が研究の発展や事業化の広がりにつながっている	情報発信が起点で共同研究・他都市への横展開に発展した件数	①共同研究：20件 ②横展開：2件

2. 令和6年度の単年度評価結果（36の確認指標による自己評価と第三者からのコメント）

【役割① 広義の都市交通の研究】

目標（5年後のあるべき姿）			地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている							
確認項目	確認指標		単 位	今年度結果※1	昨年度結果※1	活動状況※3	自己評価	第三者評価（市）	第三者評価（トヨタ）	第三者評価（研究企画委員）
1)論文の発表状況	1	査読あり国際論文数	一人あたり論文数	0.7	1.1	【傾向：×】 ・一人あたり論文数はすべて減少 ・特に国際論文数の減少が顕著 ・論文賞等の受賞はなかった	国際論文数の減少は、国際的活動に積極的だった研究員の退職が影響している。 中期ビジョン方針のカバー率低下は、論文数の減少および豊田市以外の行政からのバリエーションに富んだ委託研究が無かったことによる。	・論文発表等により、 研究所の国内外に対するプレゼンス向上に努めていただきたい。 ・競争的研究資金の獲得は、健全運営に向けて寄与するだけでなく、 自主研究の質の向上にもつながる と思われるため、さらなる活用を目指して欲しい。	◆一人当たり論文数は低下しているが、 競争的研究資金の獲得は向上しており、質の高い研究が実施できている ことは評価できる。 ◆役割①の確認指標の低下については、要因の深掘りを進めていただき、必要な対策を講じて頂きたいと思います。	競争的資金の獲得件数の増加や獲得額の増加はとても素晴らしいと思います。 カバー率指標については、昨年度と大きくは変わらないように見えますが、もう少し向上させるだけの力を有していると思いますので、工夫と努力を期待します。
	2	査読あり国内論文数	一人あたり論文数	1.5	1.6					
	3	査読なし国際論文数	一人あたり論文数	0	0.7					
	4	査読なし国内論文数	一人あたり論文数	2.1	2.4					
	5	論文賞等の受賞件数	件数	0	1					
2)研究実施領域別の状況	6	研究領域別の受託研究のカバー率	該当する方針※2 ÷ 全方針	0.52	0.54	【傾向：×】 ・受託、自主ともに研究事業のカバー率はやや低下した ・論文のカバー率に関しても、査読有り無しともに低下	競争的研究資金の獲得は向上しており、研究員の質の高い研究が実施できている。 総じて役割①については確認指標値の低下が見られ、「あるべき姿」を具現化する活動への注力に努める必要があると考える。	・引き続き、本市が抱える道路交通上の課題を抽出し、交通事故抑止への研究を進めていただき、 交通事故情報に基づいた研究所ならではの視点での政策提言を期待する。		論文数については、随時投稿できる媒体と、年間の特定の時期に締切が設定されるものがあるので、そのスケジュールを勘案しながら、 年間のどこに誰が何を出すかを戦略的に決定し指導する体制の強化 、その上で、採択率をあげるため、 大学研究者と連携して、論文推敲の強化 を期待したいです。
	7	研究領域別の自主研究のカバー率	該当する方針※2 ÷ 全方針	0.53	0.55					
	8	研究領域別の査読あり論文のカバー率	該当する方針※2 ÷ 全方針	0.54	0.67					
	9	研究領域別の査読なし論文のカバー率	該当する方針※2 ÷ 全方針	0.55	0.60					
3)競争的研究資金の獲得状況	10	競争的研究資金獲得件数	件数	7	5	【傾向：○】 ・昨年度より2件増加し、獲得金額は約3倍となった				
	11	競争的研究資金獲得金額	万円	692	220					
自己評価を踏まえたアクション			一人あたり論文件数の向上が課題である。各研究員が 積極性・参加意識を高める とともに、所内での チェック体制を整え、論文の質の向上 を図る。							
第三者評価を踏まえたアクション			■研究論文の投稿先・内容について、研究員の自主性・主体性を重んじつつ、計画的に検討し取り組む体制を整える。 ■大学教員によるサポート・共同研究体制を強化し、論文の質を向上するとともに国際論文執筆件数の増加に努める。							

※1 集計期間：今年度：令和6年4月～令和7年3月末日（令和7年2月末日段階で確定しているものを含む）、昨年度：令和5年4月～令和6年3月末日

※2 方針：研究事業および発表論文がビジョンに掲げた10方針のいずれに該当するか、割合で配点し集計（中間時（R7年度）、最終（R9年度）の評価では累計で算出し確認する）

※3 昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化

【役割② 交通まちづくりの推進】

目標（5年後のあるべき姿）			関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている							
確認項目		確認指標	単 位	今年度結果※1	昨年度結果※1	活動状況※3	自己評価	第三者評価（市）	第三者評価（トヨタ）	第三者評価（研究企画委員）
4)	政策提言の実施状況及び提案の効果	12 政策提言の件数	件	2	2	【傾向：○】 ・昨年度と同数の政策提言を実施 ・地域公共交通の課題について、R7年度に受託研究となる予定	政策提言や自主研究から市の事業や受託研究に発展する流れが定着しつつあり「政策と実践」を具現化した研究活動に努めている。	・政策提言に対する評価は、件数よりもその内容が市の抱える課題解決に結びつくものであるかを重視したい。 ・政策提言により受託に結びついた事業についての振り返りを市担当者も含めて実施し、今後の政策提言の質の向上につなげて欲しい。 ・都心整備等によるまちなかの賑わい創出に向けて、車両を始め自転車、電動キックボードなど様々な移動手段による安全で快適に通行できる導線の最適化など、市民の関心が高く都市交通の改善に向けた研究を進めてもらいたい。	◆政策提言や受託研究に発展した政策提言において、継続して結果を残すことが出来ており、具現化した研究活動が実践できていることは評価できる。	豊田市は、いろいろな顔をもっている都市で、さまざまなフィールド検証ができるので、その点を有効に活用することが望ましいと思います。その意味で、豊田市からの受注に偏っていることはそれほど気にしなくてもよいように思います。タデシナ会議に関わることも大きなアドバンテージなので、そこもプラスにとらえてよいと思います。
		13 事業化（社会実装）に発展した政策提言の件数	件※2	0	0					
		14 受託研究に発展した政策提言の件数	件※2	1	0					
5)	受託研究の受注状況	15 豊田市からの受注件数（金額）	件（万円）	7 (2542)	7 (1570)	【傾向：○】 ・件数、金額ともに昨年度を上回っている ・今年度は行政機関以外（TMF）からの受託が増えたが、豊田市以外の行政機関からの受注はなかった	受託金額、件数ともに昨年度を大きく上回っているが、タデシナ会議分科会への主導的参画に依るところが大きい。このことは、行政機関以外から要請のある公益活動への参画件数の増加にも現れている。	・指標の達成によって交通事故抑止等にどう貢献したのかを「見える化」できるとなお良い。 ・社会貢献活動については、状況が許す限り継続して積極的な参画をお願いしたい。	◆役割②については、タデシナ会議分科会への参画による面が大きいため、新たな受託先の開拓も必要だと考えます。	その上で、豊田市以外からも注目されるようなインパクトがあり、独自性もある政策提言の増強が求められていると思います。それが、後の、豊田市以外からの受託業務や相談にもつながっていくと期待されます。
		16 豊田市以外の行政機関からの受注件数（金額）	件（万円）	0 (0)	1 (290)					
		17 行政機関以外からの受注件数（金額）	件（万円）	14 (4320)	7 (2518)					
6)	地域と連携した自主研究の実施状況	18 テーマ設定時や研究遂行時に地域（関係者）と連携した自主研究の件数	件	4	5	【傾向：△】 ・地域と連携した自主研究は1件減少した ・事業化や受託に発展した自主研究（生活交通、外国人ドライバー）が1件増加	総じて、役割②については「あるべき姿」を具現化する活動ができていたもの考える。ただし「タデシナ会議分科会」への依存が高い状況について、将来を見据えながら研究員の能力配分を再検討する必要がある。			
		19 事業化（社会実装）に発展した自主研究の件数	件※2	2	2					
		20 受託研究に発展した自主研究の件数	件※2	2	1					
7)	社会貢献活動の実施状況	21 豊田市から要請のある委員、講師、地域支援活動等への参画件数	件	7	5	【傾向：○】 ・豊田市からの要請、行政機関以外からの要請による委員会活動等が昨年度より増加した				
		22 豊田市以外の行政機関から要請のある委員、講師、地域支援活動等への参画件数	件	4	4					
		23 行政機関以外から要請のある公益性のある活動への参画件数	件	10	3					
自己評価を踏まえたアクション			引き続き、事業化や受託研究につながる政策提言の立案に向けた準備（行政ニーズの把握機会の構築、提案内容検討の場の強化、柔軟な自主研究の在り方検討、等）に注力しながら、他行政機関等への横展開に努める。							
第三者評価を踏まえたアクション			■市と連携し政策提言のフォローアップを充実させるとともに、市民の関心を意識しながら、インパクト・独自性のある政策提言に努める。 ■タデシナ会議・ジコゼロへの参画を活かし、成果（政策への貢献）の拡大（横展開等）によって見える化に努める。 ■豊田市で実践してきた「地域自治に根ざした交通まちづくり」を「強み」として掲げ、横展開を意識した研究活動に努める。							

※1 集計期間：今年度：令和6年4月～令和7年2月末日、昨年度：令和5年4月～令和6年3月末日

※2 中間時（R7年度）、最終（R9年度）の評価では累計で算出し確認する

※3 昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化

【役割③ 世界への情報発信と貢献】

目標（5年後のあるべき姿）			情報発信が研究の発展や事業化の広がりに繋がっている							
確認項目	確認指標		単 位	今年度 結果※1	昨年度 結果※1	活動状況※3	自己評価	第三者評価 (市)	第三者評価 (トヨタ)	第三者評価 (研究企画委員)
8) 他都市への展開状況	24	他都市からの問い合わせ件数	件	0	0	【傾向：○】 ・他都市での事業化件数（ヒヤリハット）が大きく増加した	ヒヤリハットの取り組みが他都市で広く展開されており、今後も発展が期待される。	・ヒヤリハットの取組が他都市へ広がっている点は評価できる一方、自己評価にあるように 新たな事業の発掘にも力を入れる とよいと考える。 ・セミナーの実施やマスコミへの情報提供などの 情報発信活動をより活性化し、研究成果が広く展開される とともに、これらの成果が最終的には研究所の 経営安定化に結び付く ことに期待する。 ・役割①②③総じて、今回の中間評価による課題をよく分析し、今後の取組につなげてほしい。	◆ヒヤリハットの取組は工数もかかると思われるが、 現有リソースを上手くやり繰りして 展開拡大を進めてほしい。 ◆WEBでの情報発信強化は、現在保有している 情報の有効活用や見やすい構成の視点 でも見直しが図れると良いと考えます。 ◆少し気になる点として「世界への情報発信と貢献」が、大上段に構え過ぎではないか。「全国」か「他都市」なら分かるが「世界」と書く と確認指標が適当ではないように感じ ます。	ヒヤリハットへの長年の取り組みが実を結んでいるように伺えます。 この強みは今後とも活かしていくことが望ましい と思います。 ホームページについては、単純に閲覧数だけで効果を結論づけることは望ましくないと思います。可能であれば、 どの内容がもっともみられているのかの分析に基づいて、強化すべきコンテンツの精査につなげたい です。マップやビデオなどの 素材の充実 は急務を要するといえます。 TikTok ほどではないにせよ、短時間（1分から3分程度）の動画が好まれる時代なので、 動画戦略では、いろいろと試行錯誤して工夫を重ねていただくことを期待 します。
	25	他都市での事業化件数	件※2	9	4					
9) 情報発信活動の状況	26	シンポジウムの開催数	件	0	0	【傾向：○】 ・昨年度と概ね同等の傾向 ・セミナー実施数、イベント出店数が若干増加した	研究報告会およびまちべんの情報発信活動は、ターゲットを明確にし、内容の改善を図っている。			
	27	報告発表会の実施数	件	1	1					
	28	講習会、セミナーの実施数	件	9	8					
10) 情報発信の状況（HPの活用）	29	イベントの出展数	件	4	3	【傾向：△】 ・HPの閲覧数が約1.3倍に増加 ・動画サイト等は試行・検討中	WEBでの情報発信活動強化のために所内で対策チームを発足し検討を進めている。			
	30	研究所HPの閲覧数	回	6062	4776					
11) マスコミの活用	31	研究所WEBコンテンツ（YouTube、事故マップ等）の閲覧数	回	-	-	【傾向：△】 ・マスコミへの情報提供件数は増加したものの、報道件数は減少	マスコミへの情報提供の機会はあるが、TTRIが直接取り上げられる報道は減少しており、より積極的に質の高い情報提供が望まれる。			
	32	マスコミへの情報提供件数	件	4	1					
12) 情報発信活動の効果	33	マスコミによる報道件数	件	2	4	【傾向：×】 ・発信した情報に対する問い合わせ件数は昨年度と同件数だが、講演等の依頼は1件減少した	総じて、ヒヤリハットの他都市展開に努めるものの、新たな「武器」となる活動の強化が必要と考える。			
	34	発信した情報に対する問い合わせ件数	件	3	3					
35	講演、講習会、セミナー等の依頼件数	件	7	8						
	36	情報発信が起点で共同研究に発展した件数	件※2	0	0					
自己評価を踏まえたアクション			さらなる情報発信強化に向け、Webコンテンツの改善を具体化するとともに研究所の「強み」を踏まえた質の高い発信内容のあり方を検討し、プレゼンス向上に努める。							
第三者評価を踏まえたアクション			■タデシナ会議・ジコゼロ大作戦への参画を活かし、ヒヤリハットマップの成果を「強み」として掲げつつ、これまで豊田市で積み重ねてきた「地域自治に根ざした交通まちづくり」を「強み」として再掲し、情報発信と社会貢献に努める。 ■これまでのヒヤリハットマップの成果に基づく知見をとりまとめ、書籍出版・シンポジウム等により、効果的な情報発信を行う。 ■情報発信に関する現状の確認と分析を行い、成果報告会等の動画配信など、早急に素材の充実に務める。							

※1 集計期間：今年度：令和6年4月～令和7年2月末日、昨年度：令和5年4月～令和6年3月末日

※2 中間時（R7年度）、最終（R9年度）の評価では累計で算出し確認する

※3 昨年度からの傾向：○：改善、△：どちらともいえない、×：悪化

【令和6年度 評価の総括】

第3次中期ビジョンの2年目であった令和6年度は、新卒2名（修士・博士）の研究員採用により研究体制を整えたものの、年度途中でのベテラン研究員退職や病欠により、総体的には人的資源が不足した状況にあった。しかしながら、3つの役割における確認指標は概ね良好な成績を示しており、「あるべき姿」の実現に向けて順調に活動を推し進めている。特に「役割②交通まちづくりの推進」では、市長への政策提言に基づく実証的活動を交通政策課とともに取り組み、また、外部からの研究委託の増加などにより、豊田市での研究成果の横展開を図ることができた。

主な課題としては「役割①広義の都市交通の研究」における発表論文数の低下が挙げられる。「役割③世界への情報発信と貢献」に関しては、研究成果報告会や「まちべん」の改善を図り一定の成果を得られたものの、情報発信素材の充実が急務と捉えている。

自己評価結果と第三者コメントを踏まえ、令和7年度の活動で留意するポイント

役割①広義の都市交通の研究（あるべき姿：「地域の課題や社会ニーズを的確に捉え、活発な研究活動がなされている」）

- 研究論文の投稿先・内容について、研究員の自主性・主体性を重んじつつ、計画的に検討し取り組む体制を整える。
- 大学教員によるサポート・共同研究体制を強化し、論文の質を向上するとともに国際論文執筆件数の増加に努める。

役割②交通まちづくりの推進（あるべき姿：「関係機関との緊密な連携のもと、研究成果を社会貢献に結びつけている」）

- 市と連携し政策提言のフォローアップを充実させるとともに、市民の関心を意識しながら、インパクト・独自性のある政策提言に努める。
- タテシナ会議・ジコゼロへの参画を活かし、成果（政策への貢献）の拡大（横展開等）によって見える化に努める。
- 豊田市で実践してきた「地域自治に根ざした交通まちづくり」を「強み」として掲げ、横展開を意識した研究活動に努める。

役割③世界への情報発信と貢献（あるべき姿：「情報発信が研究の発展や事業化の広がりにつながっている」）

- タテシナ会議・ジコゼロ大作戦への参画を活かし、ヒヤリハットマップの成果を「強み」として掲げつつ、これまで豊田市で積み重ねてきた「地域自治に根ざした交通まちづくり」を「強み」として再掲示し、情報発信と社会貢献に努める。
- これまでのヒヤリハットマップの成果に基づく知見をとりまとめ、書籍出版・シンポジウム等により、効果的な情報発信を行う。
- 情報発信に関する現状の確認と分析を行い、成果報告会等の動画配信など、早急に素材の充実に務める。